

3. 測定データ

(1) 自然環境調査等

ア. 森林調査

帯広市では、残された森林の状況を調査し、良好な自然環境を保全するため、平成7年度より森林調査を行いました。

森林調査結果

調査年度	調査地名	特徴
H7	美栄町市有林 32 林班 29 小班	林分内に異なる様相の林を備え、十勝の原植生を知るうえで学術的価値が高い。
	売買川稲田地区河畔林	太い木から細い木まで切れ目なく存在する。よく発達した自然林として、本市における貴重な一標本である。
H8	泉町カシワ林	カシワ林としては市内最大級であり、林床には十勝坊主が広く分布している。
	機関庫の川河畔林	樹齢の古い木をもつ、よく発達した河畔林であり、林と林のネットワークに重要である。
H9	ヌブク川河畔林	ヌブク川の清流と緑豊かな河畔林が優れた自然環境を形成している。
	機関庫の川源流部河畔林	大径木を含む良好な自然状態が残されていて、谷は深く地形の変化に富む。
H10	富士町西富士湿性林 I	人為の影響が少なく、大径木の多い貴重な林分である。
	泉町ハンノキ林 I	台地の頂部付近の湧水のある湿性林であり、市内の他の林には見られない植物相が確認されている。
H11	富士町西富士湿性林 II	人為の影響が少なく、大径木の多い貴重な林分である。
	泉町ハンノキ林 II	湿性植生から森林植生までの一連の様々なタイプのハンノキ群落が成立し併存する。
H12	上帯広町ハンノキ林	林冠がハンノキのみからなる部分をその中にもつという点が貴重である。
	川西町西3線孤立林他2ヶ所	よく発達した林分であり、十勝坊主が存在する。
H13	基松町湿性林	林冠がヤチダモ、ハルニレ、ハンノキで構成されており、市街地と農村部との動植物の移動性の確保に重要である。
	上清川町河畔林	ハルニレを主体として、ケショウヤナギの大径木が見られるなど、自然が良好に維持されている点で貴重である。
H14	桜木町広葉樹林	林床出現種が非常に豊かであり、帯広市内では稀少なものも見られる。
	八千代孤立林	売買川源流部を含み、周辺に細長く手の余りつけられていない自然林がある。
H15	幸福町カシワ林	カシワにミズナラ、サクラ類を混ざる典型的なカシワ林であり、豊富な植物種を林床に持つ。
	上帯広町河畔林	これまで調査されてきた林分とは異なり、ドロノキ、ケヤマハンノキを主体とする林であり、植生が比較的豊かである。

森林調査結果（続き）

調査年度	調査地名	特徴
H16	大正町カシワ林	帯広市周辺で典型的に見られるタイプのカシワ林であり、大径木を散在させる。
	富士町湿性林	ヤチダモ、ハルニレが高木層を優占し、ササの侵入をそれほど受けておらず、良好な林内環境を保っている。
H17	富士町孤立林	ハルニレ、ヤチダモ、ハンノキといった典型的な湿性林の樹種にオニグルミを加えた林といって良く、大きな面積を有している。
H18	富士町孤立林	ハルニレ、ヤチダモが高木層を占めており、林としての発達程度、樹木や林床草本の多様性とも、市内の湿性林では最も良質なものの1つである。
H19	上清川町孤立林	戸蔦別川という中規模河川の後背地の湿性林であり、高木層にケショウヤナギやオオバヤナギが優占するという、これまでの調査地にはない植生を持つ。
H23	桜木町民有林	ハルニレ、ハンノキが高木層を占めており、過去に人為の影響を受けた可能性があり、後継木の定着、生長により今後の林の動態が左右されると考えられる若齢の森である。
	昭和町民有林1	ハルニレ、ヤチダモ、ミズナラ、ドロノキが高木層を占めており、未熟な発達段階にあるものの、林床植生が多様かつ貴重なものが多いという特徴を持つ。
	昭和町民有林2	ハルニレ、ヤチダモが林冠を占めており、成熟した林と考えられる。林内はササが目立つものの、川が流れるなど多様な環境を有し、林床出現種が豊富である。
H24	昭和町民有林1	相当に若い林分であるが、林床植生が多様で貴重なものが多く見られる。
	昭和町民有林2	林分内に多様な環境が見られ、人為影響もあるものの多くの植物種が見られるという特徴を持つ。
H27	中島町河畔林	札内川の後背にある湿性林であり、起伏に富んだ林床に貴重なものを含む多くの植物種や市内の分布標高下限と見られるオヒョウが生育するという特徴を持つ。
H28	富士町基線林	ハルニレ、ヤチダモ等からなる湿性林で、貴重な植物種のほか鳥類、両生類による利用が見られ、地域の生物多様性保全において重要な林分である。

イ. 生物多様性保全事業

帯広市内における生物多様性保全を図るため、平成 23 年度に郊外に分布する自然林等の調査を実施しました。

a. 調査内容

- ・ 帯広市郊外の生物関連の資料調査
- ・ 自然林等の分布及び詳細調査

b. 調査結果

資料調査と植生調査を通じ下記のような植物種が確認されました。

調査種別		資料調査		植生調査	
確認種数		119 科	1035 種	81 科	321 種
貴重種数		36 科	64 種	12 科	15 種
環境省 RL	絶滅危惧 IA(CR)	1		-	
	絶滅危惧 IB(EN)	6		1	
	絶滅危惧 II(VU)	34		7	
	準絶滅危惧(NT)	8		1	
北海道 RDB	絶滅危機種(Gr)	2		1	
	絶滅危惧種(En)	3		1	
	絶滅危急種(Vu)	5		-	
	希少種(R)	19		6	

※環境省 RL:絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(環境省・2007)

※北海道 RDB:北海道レッドデータブック(北海道・2001)

※環境省 RL と北海道 RDB の種数は、一部重複しているため、合計しても貴重種数とは合致しない。

ウ. 鳥獣生息調査

平成 22 年度から平成 26 年度にかけ、帯広市の市街地周辺の鳥類や哺乳類などの生息調査を実施しました。

a. 平成 22 年度 既存資料調査及び現地踏査

既存の調査資料等 68 点を収集し、415 科 2063 種の生物種を確認した。また、現地踏査の結果、帯広市周辺の自然林は優先種により大きく 5 つに分かれた。

確認種数

植物	哺乳類	哺乳類	昆虫類	底生動物	その他
97 科 757 種	9 科 22 種	49 科 908 種	194 科 908 種	55 科 127 種	11 科 18 種

帯広市周辺の自然林を分類した結果

植生	概要
カシワ・ミズナラ林	カシワまたはミズナラが優占する林で、林床は主にミヤコザサが繁茂
ハルニレ・ヤチダモ林	ハルニレまたはヤチダモが優占する林で、林床はミヤコザサやスゲ類が繁茂
オニグルミ林	オニグルミが優占する林
ハンノキ林	ハンノキが優占する林で、林床はスゲ類のほか湿性植物が繁茂
ヤナギ・シラカンバ・ケヤマハンノキ林	ヤナギ、シラカンバ、ケヤマハンノキ等が優占する林

b. 平成23・24年度 鳥獣生息調査

市街地に残る自然林のうち4地点を選定し、哺乳類及び鳥類の生息調査を行った。

調査地点名	確認種数	
	哺乳類	鳥類
①水光園	4科6種	14科21種
②伏古別公園	4科6種	11科17種
③つつじが丘霊園	6科12種	14科22種
④帯広川中流段丘	7科12種	14科27種

c. 平成25年度 外来生物の分布確認調査等

外来生物の分布確認調査及び市街地周辺の緑地等10カ所の緑地マップを作成した。

生物種	セイヨウオオマルハナバチ	オオハンゴンソウ
確認箇所数/調査箇所数 (うち外来と在来の混合確認地点)	89カ所/90カ所 (66カ所/89カ所)	40カ所/90カ所

d. 平成26年度 鳥獣生息状況の評価

前年度までの調査に基づき、地形及び生物から自然を評価する指標を29項目選定。

選定した指標29項目を用いて良好な自然環境がある市内の緑地等11カ所を評価した。

地点名	評価 (29点満点)
①水光園	5/29
②伏古別公園	6/29
③西町公園	6/29
④石王緑地	2/29
⑤津田公園	5/29
⑥つつじヶ丘霊園	10/29
⑦大山緑地と若葉の森	18/29
⑧帯広川段丘林	15/29
⑨緑ヶ丘公園	8/29
⑩農高の森	12/29
⑪売買川河畔林	11/29